

### 第3回 塩竈市長期総合計画審議会の概要

日 時 平成21年10月6日(火) 19:00~21:00

場 所 塩竈市役所3階 北側委員会室

出席委員 大滝委員、斎藤(善)委員、丹野委員、太田委員、馬場委員、阿部(勘)員、土井委員、小野委員、北村委員、板橋委員、斎藤(廣)委員、石田委員、阿部(邦)委員、庄子委員、松戸委員、佐々木委員

欠席委員 9名

塩 竈 市 市長、各部長

事 務 局 総務部政策課

司 会 政策調整監

#### 1. 開会

#### 2. 会長挨拶

・本日は、現計画の第3編と第4編の総括です。都市基盤整備や産業振興などは第5次計画策定にあたっても重要なテーマです。委員の意見を第5次計画策定に活かしていけるよう活発な議論を期待します。

#### 3. 審議事項

第4次長期総合計画(第3編、第4編)の総括を実施。と第1、2、5は前回実施。事務局から、総括について説明し、委員の質疑応答。

#### 第3編

(会 長) 第3編は、都市基盤整備、その上での暮らしや産業や経済活動に関連した部分です。現計画において、何が達成でき、残る課題の説明がありました。委員からご質問やご意見があればお願いします。

#### 【ごみの減量】

(委 員) 循環型社会の実現に向けた仕組みづくりで、総ごみ量が平成13年比較で5,078t、17.8%減少とありますが、その理由はリサイクルが推進されたのか、市の広報活動による啓発運動が実ったのか。

(本部長) 再資源化対策事業を市として率先して実施しており、その中での減少ということでもあります。家庭などからごみ排出が年々減っているというのが現状です。

(委 員) 総ごみ量は17.8%減少していますが、目標に対しての達成率63%の理由についてお伺いします。

(本部長) リサイクルの推進などごみの減量化についての広報PRはしているが、目標に対しては未達成ですので、埋め立て処分場では、破碎機の導入により減量に努めています。

(委 員) 排出量が減ったのではなく、破碎機による成果なののでしょうか。目標値に対し63%が達成ということは、さらにどの程度のごみを減らすべきなのでしょう。

(本部長) 埋め立て処分場で平成16年度と比較して平成20年度では半減しました。従来は廃プラスチックをそのまま埋め立てていたが、破碎機で細かくして清掃工場で焼却したので減少しました。

(事務局) 平成14年10月に環境基本計画を策定し、目標として1日1人あたりの家庭ごみ排出量860g(平成13年1人あたりの家庭ごみの排出量)を22.4%以上削減し、平成22年度は667g以下にするという目標です。それに対して、現在の1人あたりのごみの排出量は、出ていないが先ほどの資料で全体の17.4%の減少ということなので、目標の達成率として約60%の数値がありますが、まだ達成しきれていないということです。

(委 員) ごみの減少率について、人口減少は換算されていますか。

(本部長) 人口が減少しているのに、そういう意味では換算されています。

(委 員) 市では、家庭ごみの排出量を1日667g以下にしていますが、昨年からは530gを目標にしております。例えば、我が家では1日の排出量は100g未満、可燃ごみ袋は月2袋程度と、リサイクルに努めて

おります。これだけの人を育てていかないと、ごみの減量は数字上の問題だけではなく本当の意味で実現できません。

資源化するために、再度分別に手をかけている事実を市民は知りません。再度手をかけてリサイクルする手間があることは、本当の意味でごみが減少したことにはなりません。ごみの分別をする市民を1人でも多く育ててれば、自然と排出量は減少します。

また、「塩竈市民はだらしのないごみの出し方をする」と回収業者から話を伺ったことがあります。市民を育てるのも市の仕事です。「循環型社会」「環境」という言葉だけでなく、市民一人ひとりの意識改革がなされないと、達成は困難です。市民を育成するには、ごみ減量の具体策を決めて、総合計画で示していくべきです。それで、ようやく循環型社会の形成という目標を掲げることができます。

(委 員) 会社の関係でも塩竈市の場合、ごみの分別が楽です。仕事の関係で会社と契約するには、ごみの問題にしっかり対応する事業者と取引する企業が増えております。リサイクルは分別から始まりますので、そういう意味で他市と比較して遅れを感じました。

(委 員) 他の自治体で生ごみを有機ごみにする機器購入への補助がありますが、塩竈市はどうですか。

(本 部 員) 数年前までは、コンポストに対する補助は実施していました。

(委 員) EM菌使用により、洗剤を使わず油を流さないなど家庭で工夫すれば海がきれいになります。行政としては力を入れていないという話ですがどうなのでしょう。河川や海の環境改善のためのEM菌に対する市の取り組みに不満です。市民が声をあげて市が後押しをして改善する方法があります。市議会でも質問がありましたが、市の知識不足もあると考えるので、財政やごみ処理に役に立つ観点から活用の検討をしていただきたい。

(本 部 員) 市内では小学校4校でプール清掃に使用し、石鹸づくりなどの出前講座を実施しております。

#### 【バイオディーゼル燃料（以下「BDF」）】

(委 員) BDFの事業化について、原料は企業から出る油を再処理していますが、家庭からの油を収集することを想定していますか。

(委 員) BDF事業を見学した際に、将来的には家庭から出る油の活用という話を聞いて、協力したいと考えています。家庭から海に油を流さない活動により、まちや海も綺麗になる夢のある話で感動しました。市民一人ひとりが意識を持ってまちをきれいにし、新エネルギーに使えるのは将来的に良い話です。

(本 部 員) BDFは水産加工業者の揚げ蒲鉾の廃油が原料です。家庭油は、動物性油成分も含まれておりますので、今の段階で家庭からの油の回収まで至らず、質問の家庭からの回収は、現時点ではかなり困難です。どのような方法で家庭から回収するか、事業者では将来の課題としています。

(委 員) 家庭から出る油を処理しても良質なBDFにはなりません。市民がBDF燃料の原料となる綺麗な油を提供することは困難です。軽油との比較や使用する車も少ない状態で将来的には、採算面において不透明な部分もあります。そういう意味で、家庭の廃油からのBDF製造は、不可能だと考えます。

#### 【自然と共生するまちづくり】

(委 員) 宮町の水路を改修し、蓋をすると聞いております。その水路は、水や魚といった自然と暮らせる部分です。防災対策ということも理解できます。しかし、北浜沢乙線も河川の上に道路を構築したことから、自然と共生するまちづくりより防災重視になっている部分であります。

(本 部 員) 水害対策は数十年来の市の重要課題として、未整備箇所から随時取り組んでまいりました。委員指摘の箇所は、一部の護岸は土のうで対応している状況です。現在、水路の整備について地元のご意見をお聞きしているところで、水路は開いたままで整備する方法とボックスカルバートという蓋をする方式の二案を示しました。地元の方々の意見は、第一に水害対策に万全を期していただきたいということでした。整備にあたっては、ご意見をお聞きしながら、塩竈の地域の特色を残していきたいとも考えております。

(委 員) これからのまちづくりの中で自然との共生、水や緑を大切にしていきたいと思います。直接水路に面している方は水害対策の点が大きいです。個人的には、自分の財産なので嵩上げなど自己対策も必要なのではと考えております。

その相反する事例に対しては、総合計画や行政における根本的な対策が必要であり、総合計画はその役割を果たすものです。当事者が大きな声で主張するのは理解できますが、そういう事例が出たときに調整するのも市の役割です。総合計画の全般においてですが、住民の意見を取り入れただけでは不十分なのではないのでしょうか。

#### 【北浜沢乙線の植栽】

- (委員) 西町の北浜沢乙線は大きな木がなく、夜間は灯籠が目立ち「門前町なのに墓石」のようという話を聞いております。整備にあたっては、落葉樹は掃除が大変、水路が詰まるという意見もあったと聞きました。宮町の北浜沢乙線は、工作物などが地下埋設されており、道路工事を容易にするため、柳の木の植樹が困難になったと聞いております。石張りなので花や草を植栽して欲しいと考えます。観光の柱になる立派な道路ですが、緑や水など人が落ち着く雰囲気を醸成していくのが市の役割と考えております。行政が気づかない部分を市民の意見で変えていく、1人の損得ではなく広い視野からの話で進めて欲しいです。
- (委員) 北浜沢乙線が殺風景で石の上を歩く寂しさを感じます。5年ほど前に所属団体で、市の花である白菊をマリンゲート塩釜から表参道まで植栽しようという話が盛り上がり、地道に活動しております。
- (本部長) この路線は、20年前から計画が始まっていて、その際に地元の方々に意見を聞いておりました。西町は神社の緑があるので、沿線の緑が少なくても良いという意見が大勢を占めていました。また、以前は河川があったことから、現在の道路の下に雨水幹線を入れ、ガスや水道管は歩道部分に埋設されています。その関係上、西町の歩道部分は高い木が植えられない状況です。宮町では東に行くに従い道路幅が広いので、高い木の植樹が可能です。植栽は、塩竈のイメージということで古今和歌集などの和歌にちなんだツツジや白菊などの低木を西町に植えております。
- (会長) 第3編は緑や基盤整備の話であり、第5次計画でも具体的に表示されるところです。意見を出して、議論をすることが大事です。議論を重ねないと、比較的近い人の生活や意見だけの計画になる危うさがありますので、よく検討しながら進めていくべきです。また、第3編は将来的な話が多く出てきます。10年以上の長いスパンの話から検討していくことになります。また、各委員の指摘のように行政も気がつかない事例がありますので、遠慮せず審議会の席上で発言していただきたいと考えております。

#### 【若年層への住宅施策】

- (会長) 第3編について、20代から40代の人口が急激に減少していることから、若い世代の住宅政策についてどういう取り組みをしているのか。現時点では、高齢化に対応する部分が多い。若い世代の人たちを住みやすい所に誘導していく政策をこれからの時代の中ではっきり出した方が良いと感じている。市営住宅、公営住宅政策の中でも考える必要があります。

#### 【水洗化】

- (委員) 市内の水洗化の普及率は高いが、まだの所もかなりあります。水洗化への強制力はないので、補助などの方策を推進していくことも必要です。

### 第4編

- (会長) 第4編は産業振興や経済関係ですが、現在は非常に厳しい状況です。しかしながら、現計画の策定時点と比較すると、新しい取り組みが数多くなされて、市民の意識も変わってきています。ただし、成果として明確な数字が出ていないこともあります。まちなかを歩く人たちは増えていると実感しますが、具体的な成果としては出ていない。これを反転させて具体的な成果をあげていきたいと考えます。次期計画に際しての非常に重要な分野であることから、皆さんから様々な広く深い提言をいただきたい。

#### 【塩竈の観光】

- (委員) 店舗の扉が閉まっていると入りづらく感じますので、観光客はさらに入りづらいつとを考えます。他市町から来た人が気楽に店に入ると満足度が上昇します。市内の店主は、消極的というか内気であると感じますので、市や商工会議所が助言をして、より積極的になれば観光客を誘致できると考えます。

有名な店だけでなく、小さくても良い店があることをPRし、観光客を引き寄せることが大事です。また、店舗がノウハウやツールを持っていないこともあり、特に高齢者の場合、ホームページの作成も困難と考えられます。そのため、市や商工会議所で作成を手助けすることでPRにつなげられます。

マップを持ち市内を歩いている観光客は、ある程度増えている実感はあります。もう少し、商店街などに入って行って欲しいので、情報発信の方策を第5次計画で示していくべきです。

(委員) 最近、休日などにマップを持った観光客多くなりましたが、せっかく来ていただいているのに店舗が休みの場合がありますので、何とか対応できないものでしょうか。

(本部長) 市としても商店会や店舗に頻繁にお願いをしております。理解いただいた店の有志の方々が「おもてなしチケット」を作成し、集客を図っています。また、旅行雑誌にもPRし今月には本町界隈の店が紹介されるなど努力をしています。

(委員) 休日の商店街のシャッターを開けておくのは、商店街の一員として開けて欲しいと考えていますが、個人の都合で難しいのが現状です。

(委員) 市内の宿泊者数は平成13年度から増加していますが、観光客かビジネス客なのか分かりません。また、平成20年度44,548人で、1日あたり約120人になりますが、市内に実際泊まる場所があるのか。

(本部長) 平成13年から20年において宿泊数が増加したとありますが、塩竈市内は13年～15年までぐらいに3件のホテルがありました。1件なくなりました。また、浦戸民宿も入ってこの数字になります。

(委員) 平成12年から平成19年にかけて歩行者が減少し、自動車も減少しておりますが、この「中心商店街の交通量」というなかで中心商店街というのはこのことでしょうか。

(本部長) 通行量調査は、平成11年と平成19年に実施しております。中心商店街としては、JR本塩釜駅周辺、壱番館、本町商店街、南町、塩釜駅など10箇所ほどの地点です。

(委員) 今後の課題として、地域内発型旅行商品を創造し、地域連携も見据えた観光振興が必要、その母体となる観光物産協会の組織強化や旅行業の取得などが求められると記載されています。会員はそれぞれ商売をしており、事務員は市の職員であることから、旅行業と両立するのは大変で、観光物産協会としての旅行代理店業は不可能と考えます。

(本部長) 観光物産協会を法人化した上で、独自の旅行商品を各地のエージェントと協議しながら、作成するという事です。そういう意味での組織強化です。

(委員) 観光物産協会では、以前はイベントの企画から実施まで全て単独で行って行っていました。しかし、協会は各業界団体に提案し、それを実施するための組織化、運営の仕方を考えながら軌道に乗せていくことが仕事と考えます。協会だけでなく、業界を支援するシンクタンク的な組織として確立し、市はその後押しをお願いしたい。法人化については、資金の問題もあり、なかなか難しい状況と考えます。

また、デパートや大型量販店に集客があるのは、毎日イベント的なものを実施しているからだと考えます。集客を増加させるためには、お祭りのようなものを実施するのが良いと考えております。

(委員) 塩竈には観光物産館はあるのでしょうか。地元の商品を購入できることは大事だと考えます。市内にはマリンゲート塩竈くらいなので、その点が気になっています。

(本部長) 以前の商工会議所の入口に地元商品を設置しておりました。

(委員) 株主総会ができる立派なホテルが欲しいです。市内での実施が困難だったので、隣町で行いました。

### 【「どっと塩竈商品券」】

(委員) 経済波及効果を狙った上での商品券の発行ですが、地元の商店街だけではなく、大型量販店でも利用可能でしたら、さらに商品券の購入が進んだのではないのでしょうか。

(本部長) 「どっと商品券」については市内商店街での消費が目的でした。大型量販店を対象とした場合、そこで大半が占められてしまいます。近隣市町は大型量販店が主でしたが、塩竈市では1,000㎡以内の店舗としまし。4月15日から販売し約2ヶ月で完売しました。現在、アンケートの集計中であり、今後の景気対策の参考とします。

(委員)「どっと塩竈商品券」の消費期限が8月31日でしたが、年間を通して使用できると消費者は便利でした。消費期限を決めないで販売することは可能でしょうか。

(本部長)各商店の資金繰りや短期間で収益を上げたいという要望があり、結果的にできませんでした。

### 【港湾関係】

(委員)港湾関係ですが、事業者は仙台港と塩釜港を一つとして考えています。お互いに補完関係にあり、ひとつの港で地区が分かれているだけという認識をお願いします。平成20年11月、新しい港湾計画が策定され、今回は民間の意見を取り入れ、仙台港はハード面、塩竈に関してはハード面では老朽化対策だけになっています。港は水深が9mあれば十分ということではなく必要最低限です。船も省エネの関係からプロペラが大きくなっており、9mは絶対に必要です。また、国際貿易港として塩釜港が成り立つためには、スタンダードタイプの船は240mあるので約300mの岸壁の長さが必要です。

商工会議所が中心となっている「塩釜のみなとを考える会」では、商港や観光、漁港として、まちづくりに大事な資源であると議論しました。港は、経済活動のためだけに使うのではなく、地域として東北の太平洋側の港のなかで防災基地として位置付けるという提案もしています。

現在、県の協力により塩釜港では岸壁料や入港料の負担が無いという有利な点を強調し、他港に行っている船を誘致しており、市と共に懸命にPRしている段階です。

観光と水産の部分をどうやってマッチングするか、船が入れば、海上保安部の基地、ヘリポートなどがあれば観光などに利用できると考えます。港湾関係事業所の市外移転を食い止めるためにも、要望活動を強める必要があります。海上保安部などの役所を逃さないことが大事、それと銀行や郵便局、人が働いているので食堂なども必要です。

(会長)港湾の関係については、市民の方は分からない部分もありますので、参考になります。観光の部分を活かした港湾については興味深い話です。

(委員)「JRで本塩釜駅に着いた時、港町なのに船が見えなく違和感があった」と聞きました。駅に近い側に大きなヨットやプレジャーボートを係留することで解消できると考えます。また、県内で放置されている船が約2,000隻ありますので、港内に少し手を加えれば、船の係留による経済効果も見込めます。

塩釜港は恵まれた港で、仙台港は台風が来ると波が荒いことから船が逃げますが、塩釜港には避難船が入港するなどの違いがあります。入港料を取らず、船籍を塩竈にしてもらおう方策により、経済効果が見込めます。

### 【歴史と文化を活かしたまちづくり】

(委員)歴史と文化を活かしたまちづくりに取り組まれていることは理解しています。しかし、これだけの歴史があるまちで、実施していること小手先で大きなビジョンが感じられません。総括では、今後の課題として交差点改良やバリアフリーなど挙げられておりますが、歴史と文化という観点からは不十分です。歴史があるのに活かされておらず、港町としての景観も創出できていません。あるものだけではなく、演出的に創出することは必要と考えます。第5次計画の中では、北浜の護岸整備が大きなものになると考えます。

港町なのに水面がないのは、問題です。防災の関係上、閉めざるを得なかったことも理解できるのですが、今後は現在の技術を使って水面を展開しないと港町とは言い難く、観光客も落胆するのではないのでしょうか。

これまでは、あるものを活かすという観点でしたが、歴史と文化を活かすということでは、積極的演出も必要と考えております。例えば、横浜市のJR桜木町駅を降りた時は圧倒されます。そのレベルでなくても赤煉瓦倉庫など見習うところはあります。また、福岡市や函館市など、志は高く港町を打ち出せる夢を持って、議論していきたいと考えております。

## 4. 事務連絡

(事務局)現計画の総括について幅広い議論いただきました。市民意向調査の結果ですが、市民の関心も高く、かなりの自由記載がありました。次回審議会でも分析結果を示して、議論をしていただきます。また、会長の意見を取りまとめた資料を配布いたしますので、ご覧になってください。次回審議会は11月17日(火)13:00から開催いたします。